

令和8年度 第1回 田原本町 まち・ひと・しごと 創生総合戦略推進委員会議事要旨

開催日時 令和8年6月10日(火) 午前10時00分～午前11時30分

開催場所 田原本町役場 301・302 会議室

出席者 国立大学法人奈良国立大学機構奈良教育大学名誉教授 根田 克彦

(敬称略) 公立大学法人奈良県立大学名誉教授 小松原 尚

田原本町議会議長 植田 昌孝

田原本町議会総務文教委員会委員長 持田 尚顕

一般社団法人田原本まちづくり観光振興機構理事 服部 誠

田原本町自治連合会会長 小林 祥孝

株式会社ヨシケイライブラリー

ヨシケイ・ナラ事業部営業部シニアマーケティング課課長 山岡 洋之

株式会社南都銀行田原本支店支店長 中川 真治

奈良中央信用金庫理事 山田 章生

田原本町立田原本小学校校長 坂本 雅代

欠席者 田原本町農業委員会会長 安田 喜代一

(敬称略) 田原本町商工会会長 吉川 眞司

田原本町地域婦人団体連絡協議会会長 山岡 佐規子

田原本町PTA連合会会長 森田 麻美

奈良県産業部次長 野田 康彦

社会福祉法人田原本町社会福祉協議会事務局長 藤本 勇樹

事務局 副町長 教育長 町長公室長 総務部長 住民福祉部長 産業建設部長

教育部長 町長公室参事 町長公室兼産業建設部参事 企画財政課

## 1. 開会・資料確認

(事務局)

開会を宣言。出席委員11名により田原本町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会規則第5条第2項に規定する定足数を満たし、委員会が成立している旨報告。出席者紹介は名簿等の配付をもって代えられた。

配付資料(議事次第、委員名簿、委員会規則、資料1～5)を確認。資料4-1および4-2について机上配付にて修正版への差し替えを案内。

## 2. 委員長の選任

委員会規則第4条第1項に基づき委員長を互選。委員からの事務局一任の声を受け、事務局より長年にわたり都市地理学等の専門領域で深く関わり、本町の立ち上げ当初からの歩みを熟知する学識経験者である根田克彦委員が推薦され、委員全員の異議なしをもって選任。根田委員長は、前委員長である小松原委員や皆様の力を借りて大役を務めたい旨を挨拶し、議事進行に入った。

## 3. 審議事項

議案第1号:令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金事業の効果検証について

事務局より資料1に基づき、令和6年度で交付金対象期間の最終年度を迎えた2事業について、事業・KPIの検証について説明が行われた。

【主な質疑・意見】

(小松原委員)

第4次田原本町総合計画後期基本計画との関連において、これらの交付金事業はどのように位置づけられているか。

(事務局)

本交付金事業は第4次総合計画内の総合戦略に位置づけている。フード・ラボ事業は基本目標1「しごとづくり戦略」の事業者支援、ヘルスケアプロジェクト(健幸まちづくり事業)は「安心・安全まちづくり戦略」の健康と安全のまちづくり分野にそれぞれ紐付いている。

(持田委員)

資料5 ページの健幸ポイント事業において、当初計画事業費(約4,900万円)に対し

て実績(3,300万円)が約1,600万円の減額となっている要因は何か。

(住民福祉部長)

本事業の委託料は成果連動型契約となっている。7ページのKPI実績において、4市町広域および田原本町単体での健幸ポイント事業参加者数や、80～90代の参加者数、医療費・介護給付費の抑制額の目標を達成できなかった。この結果を重んじ、受託事業者への支払い(委託料)が減額となったためである。

(持田委員)

7ページの健幸ポイント事業の項目において、全体の参加者数として示されている1,830名と、80～90代の参加者数(235名)、および進捗状況に記載された二十歳以上の参加者数(1,928名)との整合性や計算上の内訳について説明を求める。

(住民福祉部長)

令和6年度の参加者数1,928名は目標値2,440人に対して未達成であり、80～90代の235名は内数である。

#### 議案第2号:令和6年度 企業版ふるさと納税の効果検証について

事務局より資料2に基づき、令和6年度における寄附充当事業の成果検証が報告された。ヘルスケアプロジェクト事業に対し2社から計210万円、中央体育館バレーボール用備品購入事業に対し1社から81万4,000円の寄附を受領。ヘルスケアでは運動不足層の推奨歩数達成等の効果を確認。体育館備品では審判台や防球ネットを購入し有効活用されている旨が説明された。

【主な質疑・意見】

(小松原委員)

ウォーキング等の健康活動は、地域を知ることで防災や安全に繋がる。64歳以下の無料アプリ移行も含め、今後は防災マップとの連動や、地域の安全見守りといった視点を取り入れる展望はあるか。

(住民福祉部長)

現在も高齢者が子供の下校時間帯(15～16時)を意識して歩く「見守り活動」との兼ね合いは周知・推奨している。防災マップとの連動や地域貢献の視点からのウォーキングは非常に素晴らしい提案であるため、今後の啓発に活かしたい。

(持田委員)

企業へのメニュー提示方法と、寄附を増やす仕組みをどう進めるか。また、体育館備品購入において申請時(令和4年5月)の利用件数(3,296件)から4年度目標値(3,100件)へ下がっている理由と、備品充実が利用者増に直結するのか疑問である。

(事務局・町長公室参事)

総合戦略そのものをメニューとして提示し協議している。中間事業者の活用や全国へのPRに加え、昨年度は目的別のパンフレットを作成し、町長によるトップセールスで寄附獲得に努めている。

(教育部長)

申請時の3,296件は令和3年度の実績値と推察される。令和4年度の目標値を3,100件と下げたのは、コロナ禍による一時的な利用率の急減があり、回復の想定が難しかったため見直しを行った。審判台や防球ネットの購入のみで劇的な利用者増は難しいが、コロナ明けた利用者の増加傾向を適切に維持・管理していく方針である。

(山田委員)

奈良中央信用金庫は本店が田原本にあるため本町へ直接寄附できない仕組みだが、周辺12市町村へ計16回寄附を行ってきた。寄附のきっかけは首長から理事長への直接依頼や、地域再生計画の主体者からの直接依頼が多い。ホームページ閲覧経由はほぼないため、町長のトップセールスや主体者からのアプローチに注力すればさらに増える。過去には、取引先で他市町村にある会社に直接お声掛けさせていただき、寄附をいただいた事例や、信金中央金庫から、FMラジオ局開設にあたり1,000万円の寄附事例もある。

議案第3号:令和6年度 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

事務局より資料3-1および3-2に基づき説明。令和7年度に本委員会を開催できず延期となったため、今回は2年前となる令和6年度の効果検証を主に実施。数値目標7項目はすべて達成度80%以上(S評価4、A評価3)であり、KPI38項目中4分の3が概ね順調(S評価16、A評価13、60%未満は4項目)。将来目標人口に対する令和7年4月1日現在の推計人口は30,635人であり、当初想定(30,581人)に比べ減少スピードは緩やかに推移している旨が報告された。

【主な質疑・意見】

(山岡洋之委員)

表が数字だけで構成されており分かりにくいいため、目標値や前年比率、和暦・西暦の表記統一などの表現改善を求める。体育館の件も前年比で見ればかなり伸長しているため、数字の見せ方を工夫してほしい。

(根田委員長)

今回の資料提示ではより分かりやすい形に改善してほしい。

(小松原委員)

3点提言する。

- ①人口動態の絶対値評価だけでなく、全国の類似団体の減少傾向に比べ田原本町が緩やかである点を捉え「相対的には増えている」といった工夫ある見せ方をすべき。
- ②数値的な客観評価だけでなく、役場の職員がどれだけ目標に取り組み貢献したかという質的側面(満足度や働き方改革の質)を評価する工夫が必要になってくると考える。
- ③計画に記載されているSDGsの17目標に対する各施策の関わりや実現度について、中間地点として折り返しの評価・取りまとめを事務局で行うべき。

(事務局)

人口動態の分析手法や評価指標の検討については、令和8年度で現行計画が終了し、令和9年度からの第5次総合計画・総合戦略の策定に向け現在検討中であるため、いただいた質的評価やSDGsの視点も含め、反映できるよう評価方法を検討していきたい。

議案第4号:第4次総合計画後期基本計画及び第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

事務局より資料4-1、4-2に基づき、計画開始から3年が経過したことに伴う3つの主な改定内容(①ヘルスケアプロジェクトの対象を65歳以上に絞る健幸ポイント事業へのリニューアル、②防災フェスタの町単独「防災ひろば」移行に伴う指標見直し、③特産品等開発支援事業の終了に伴うブランド力強化の文言削除およびスタートアップ誘致・定着の追加)について説明がなされ、審議が行われた。

【主な質疑・意見】

(山田委員)

新設されるスタートアップ誘致の KPI について、現在、田原本町・ReGACY Innovation・奈良中央信用金庫の 3 者で進めている 10 か年の「たわらもと ReBORN プロジェクト」で設定している KPI が 3 つであるため、その KPI との整合性を図り、項目を合わせた方が良いのではないかと。

(産業建設部長)

国の補助金申請時の目標設定文言等との整合性もあるが、できる限り上位計画である総合計画・総合戦略側に合わせ込む格好で、事務局側で再度調整・検討させていただきたい。

(服部委員)

奈良中央信金の支店跡地を企業創造支援に利用しているが、外側に何も表示がなく町民に伝わっていない。広報だけでなく、町民に活動が見えやすい工夫をお願いしたい。また小松原前委員長が言うように、人口減少の相対的評価を進めることで今後の計画の立て方が変わるため検討してほしい。

(根田委員長)

スタートアップ箇所の文言微修正等の最終判断を含め、本改定案は事務局一任のうえで承認とすることよろしいかと。

(委員一同承認、原案可決)

#### 4. その他(今後のスケジュールについて)

事務局より資料 5 に基づき、令和 8 年度の推進委員会スケジュール(全 4 回)について説明がなされた。第 2 回(8~9 月頃)に令和 7 年度版の効果検証および第 3 期(次期)総合戦略策定に向けた骨子審議、第 3 回(11 月頃)に次期戦略案およびパブリックコメント実施の審議、第 4 回(令和 9 年 1 月頃)にパブリックコメント結果報告と修正案の審議を行い、令和 9 年度からの次期戦略(5 か年計画)へ円滑に移行できるよう準備を進める旨が示され、了承され、閉会。